

広報

やまと

11 月号

2011 No.218

特集
絆を深める伝統行事。

～十五夜豊年祭・クガツクンチ～

もくじ

02-09 特集：絆を深める伝統行事。～十五夜豊年祭・クガツクンチ～

10-17 村の話題：ひらとみ祭りが盛大に開催、ほか

18-18 お知らせ：アミノクロウサギ交通事故多発警報、ほか

19-20 連載：島の宝、ほか

豊年祭の準備に余念のない村人たち（国直公民館）

特集

絆を深める 伝統行事。

～十五夜豊年祭・クガツクンチ～

大和村は奄美大島の中部に位置し、東シナ海沿いに点在する11の集落からなる。海岸に面した集落の背後には急峻な山々が迫り、河口のわずかばかりの平地に人々が肩を寄せ合うように民家が集まる。山が険しく交通の閉ざされた集落ではおのずと人々の結びつきは強くなり、農作業など人出の必要な作業はユイ（結い、ユイワクともいう）と呼ばれる相互扶助の精神で助け合い暮らしてきた。

村の暮らしは集落単位での行事が続くが、数ある行事の中で集落連帯の象徴と言えるのが豊年祭だろう。豊年祭は収穫期と播種期の狭間、農民にとってトシの改まる八月（旧暦）から行われる。人々は農作物の豊作と集落の無事に感謝を捧げ、さらに一年の豊穡と安全を祈願して豊年祭を行ってきた。

豊年祭が近づくと集落民総出で準備が始まる。子ども達は、男子がジドリ（地取り）と呼ばれる相撲の稽古を行い、女子は余興で披露する踊りの練習に励む。婦人達は祭り当日に使用される塩や米、金銭を各世帯から徴収し料理の下ごしらえを行うとともに、自らの余興の練習にも余念がない。公民館では児童生徒から青壮年団、老人クラブが八月踊りの練習を行い、歌声とチジン（太鼓）の音が集落中に響き渡り豊年祭が近いことを知らせる。



島に暮らせば誰もが力士

奄美大島は相撲が盛んな土地柄で、各集落の公民館前には屋根付きの立派な土俵が整備されている。大抵は個人でマイまわしを持ち、集落でも十数本の共用まわしが用意されているので、小学生ともなればまわしを締め一人前の力士として豊年相撲に参加する。

力士達はテラやトネヤから「イヤーヨイヤー ヨイヤーヨイヤー」の掛け声と共に振り出して公民館前に入場。最初はイチブネセ（若手青年）による前相撲から始まり、乳幼児、児童、生徒、青壮年と順次取り組みが進む。

土俵に上がる力士には周りの力士から四股と共に「ヨイヤ、ヨイヤ、サッ！」の掛け声を送られる。通常は1本勝負だが同窓生や因縁の対決になると負けた力士が「もう1本！」と注文を付け再戦を挑むことも。また、親族同士の注目対決には観客席からお花（懸賞金）が飛び出すこともある。

なお、この日初土俵となる幼児は土俵入りが行われ、化粧まわしを締めた豆力士が父親に抱かれて四股を踏むと観客席から「ヨイシヨイ」の掛け声が飛ぶ。集落民全体で幼児の初土俵と健康を祝う姿は何とも微笑ましい光景だ。取り組みは個人戦や団体戦、集落対抗戦、兄弟・親子相撲など様々な対戦が生まれ、白熱した相撲に観客からは声援やヤジが跳び、会場は終日熱気に包まれる。

特集 絆を深める伝統行事。～大和浜集落・棒踊り～



伝統芸能が育むシマの宝

大和浜集落（大崎忠通区長・130世帯）の十五夜豊年祭では、青壮年団による棒踊りが奉納される。

棒踊りは長さの異なる2種類の棒と鎌、なぎなたを使用し、前後、左右と激しく棒をぶつけ合いながら踊る勇壮な舞いだ。構成は「君が代」「霧島」「白帆」の3部からなり、ゆっくりとした出だしから徐々にリズムが早くなり激しさを増していく。終盤の鎌となぎなたを使用した「白帆」は、「エイ！エイ！」の掛け声と共に鋼のぶつかる金属音が響き、火花が飛び散る様子は大人でも危険を感じるほどの激しさだ。

棒踊りの起源は古く、明治35年に大和浜出身の井原甚四郎氏（1861年生）が若者の士気の高揚と規律保持を目的として伝授したのが始まりとされる。今年も中学1年生の小田康太くんから47歳の仁添史密さんまで幅広い年代の男達16名が数週間前から稽古を重ねてきた。

大和浜の男子生徒は中学生になると棒踊り隊の一員となり、社会人の先輩から踊りのみならず礼儀や生活態度を厳しく指導される。また、地域の人々は指導だけではなく日頃から子供達に言葉をかけ優しく見守る。大和浜には棒踊りを通じ地域全体が青少年を育成する土壌が残る。

大人に混じって逞しく踊る子供達を目の当たりにし、井原甚四郎翁の志は現在もなお大和浜集落の人々に受け継がれていると感じた。



特集 絆を深める伝統行事。～思勝集落・ミキ作り～

感謝の気持ちを伝える 手作りの味



- ①生ガン用のサツマイモは水にさらしてアク抜きをする ②糊状に固まった米粉を混ぜるのは重労働だ
 ③指先で感触を確かめながら慎重に生ガンを混ぜる ④「お茶とお喋りが何よりも楽しみ」と口をそろえる
 ⑤左ないの縄でバジヌハの蓋を閉じ一晩寝かせる ⑥「寅→卯→辰→巳→午→未」指折り数えて干支を確認
 ⑦ベテランでさえ緊張するという口開け ⑧集落役員達がトネヤでの祈願の後ハツ物をいただく



受け継がれる伝統の味

ミキ（神酒）は米粉を原料とする発酵飲料で、奄美大島を始め南西諸島全域で神事に用いられている。クガツクンチのガンタテ（願立て）の際には、米やシューギ（生米餅）等とともに神事には欠かせない供え物だ。最近ほとんどどの集落で市販のミキを使用しているが、思勝集落（元山安雄区長・62世帯）では昔と変わらない製法でミキづくりを行っている。聞き豊年祭の前日に訪ねた。

午前8時、トネヤ（村の守護神を祭る家）の玉井俊一さん（75歳）宅には10名ほどの女性が集まりミキづくりに取りかかっていた。壁に張り出されていたレシピによるとミキ作りの大まかな製法は次の通り。

- ① サツマイモを刻みアクを抜いた後にミキサで粉碎し生ガン（絞り汁）を取る。
- ② 八升のお湯に米粉三升、白糖3キ口を混ぜ糊状になるまで混ぜる。
- ③ ②が冷めたら①を混ぜまじりなくこねる。
- ④ 容器に移し密閉して一晩寝かす。

すでに生ガン用のサツマイモは水にさらされ、大鍋からはモウモウと湯気が上がっていた。さっそく次の行程②に取りかかる。

二人掛かりで米粉をふるいにかけるから沸騰したお湯に混ぜる。糊状の米粉は放っておくとすぐに焦げてしまうのでミシゲ（木ベラ）を持つ手に力が入る。ミシゲを操りぬめりの強い餅粉をこねる作業は重労働だ。

米粉と砂糖を混ぜ終えると鍋をかまどから下ろし、中身が冷めるまでひとまず休憩となった。時刻はちょうど10時。「でい、茶つくわすろお」の声と共に各自が持ち寄ったお茶受けを並べてティータイム。家主の洋子さん（71歳）からソーメン汁が振る舞われミキ談義に花が咲く（島でのお祝い事にソーメンは必需品）。

奄美特産
思勝のミキ



午後からは米粉と生ガンのブレンド工程③。混ぜる生ガンの量は定められず、その日の天候に合わせて分量を決める。勘と経験が頼りの難しい工程だ（この日は長老数人が相談して分量を決定）。

名称	ミキ（神酒）
原材料	くみい・はぬす・さた
内容量	二升五合
賞味期限	旧暦九月九日
保存方法	バジヌハで蓋をすべし
取扱上の注意	飲む前に「トートガナシ」飲んで後に「アリガッサマリョータ」とつぶやくこと
製造者	思勝集落 鹿児島県大島郡大和村思勝トネヤ

「作業の合間にお茶を飲みながらお喋りをするのが何よりの楽しみ」と参加者達は口をそろえる。永年ミキ作りを行っている仲新城幸子さん（75歳）は「高齢者が多いので年々欠ける方がいらっしやるけれど新たに協力される方が来てくれるのはありがたい。これからも思勝の伝統を引き継いでほしい」と語った。

混ぜ終えるとプラスチック容器に移しバジヌハ（クワズイモの葉）を被せ、左ないの藁縄で縛り密閉。一晩寝かせて熟成を待つ。

出来たての「若い」ミキは甘くてドロツとしていますが、発酵が進むと酸味が増し喉越しが良くなる。好みは人それぞれだが、「イタシキバレ（豊年祭後の片付け）に飲むミキが一番美味しい」と言う人もいる。

豊年祭の早朝に行うミキの口開け（開封）は、当日の干支から「はねる（六番目の）」干支の女性が行うしきたりとなっている。今年の祭日の干支は寅なので（寅↓卯↓辰↓巳↓午↓未）未年の女性となり、榮よう子さん（55歳）がその大役を担うこととなった。（はねる・指折り数えた小指が六つ目にはね返ることから）

「何度作っても口開けは緊張しますよ」そう話すのは先輩の森節子さん（80歳）。榮さんが緊張の面もちで縄を解きバジヌハを開くと、容器の中から米の甘酸っぱい香りが沸き立ち期待が膨らむ。森さんが一口飲んで「今年も美味しいミキができました」と満面の笑顔で話してくれた。

地域行事は総じて簡素、簡略化の方向にあり、ミキに限らず塩や味噌、醤油など家庭で作る風習が無くなって久しい。誰もが安価で手軽に商品を購入するにもかかわらず思勝集落ではミキを作り続ける。その理由は古い物や先祖を大切に、伝統を重んじる集落の地域性にあるのではないかと。そして、集落民が伝統の手作りミキを誇りとし、作り手の方々に感謝の気持を持ち続けるからに違いない。

「若い人たちに伝統を受け継いでほしい」と仲新城さんが話すように、いつまでも思勝にミキ作りの文化が伝承されることを願う。取材を終え出来たてのミキを頂くと甘酸っぱい風味が口に広がった。思勝集落民にとつてクガツクンチを思い出す伝統の味だろう。

特集 絆を深める伝統行事。 ～大柵集落・ナカイリ～



特集 絆を深める伝統行事。 ～名音集落・願直し願立て～

改まるトシへの 感謝と祈 原貞



名音集落ガンノシ・ガンタテ

派手に滑稽にキトバレ

相撲の取り組みの中頃になると、チカラウバン（握り飯）や料理を持った力士と着飾った女性らによるナカイリ（中入り）が行われる。

ナカイリは全ての集落で行われるが、とりわけ大棚集落（前田清和区長・140世帯）のナカイリは盛大だ。

大棚集落は大棚川を挟んで東側の池田地区と西側の里地区に分かれているが、ナカイリもそれぞれが東西から振り出す（以前は池田・里の両トネヤから振り出していたという）。また、今年（平成23年）は特別に郷友会も参加し、3回もの派手なナカイリが行われた。

ナカイリの行列の後方は面やカツラ、奇抜な衣装を着け仮装した女性達が続く。池田地区から顔面を真っ白に塗った「バカ殿」の一人が現れると観客席からは大きな笑い声が上がった。また、仮装には年ごとにテーマがあるらしく、今年には全日本女子サッカーの「なでしこジャパン」をモチーフにした衣装が多かった。

相撲を取らない女性達にとつて仮装して踊ることはキトバレ（邪気を清め払う）意味を持つので派手で滑稽な出で立ちほど良いとされる。

ナカイリで運ばれる料理は地区によって若干異なるが、大棚集落では旬のウム（里芋）やバカイキャ（トビイカ）の他ゆで卵や唐揚げが調理され、ナカイリが済むと土俵だまりに配られ力士や観客に振る舞われた。

感謝と祈願のガンノシ・ガンタテ

多くの集落で豊年祭の簡略化が進み宗教的色彩合いが薄まりつつある中、名音集落（勝三千也区長・102世帯）には現在でもノロ（祭司）を中心とした祭祀の諸儀礼が色濃く残る。

名音集落の親ノロの三島タケ子さんは島を離れ鹿児島市にお住まいだが、毎年クガツクンチには帰郷し集落のガンノシ・ガンタテ（願直し・願立て）を行っているといるという。

ガンノシ・ガンタテとは、集落の無事と豊作を願って前年に立てた願を感謝の気持ちを含めて解き、さらに一年の安全と豊穣を願って願を立てる儀式だ。ノロ神は「今日の良かる日にクガツクンチの願直しおせりよ・」「二年間集落を災いからお守り下さりありがとうございます・」「来年のクガツクンチまで集落が平和に暮らせませようお願いします・」の様なかみダチ（神口）をそれぞれに唱えた。



ガンノシには米（三升三合三勺）

とミキ、酒、賽銭、塩、餅が供えられ、ガンタテには米とシューギ（生米餅）、酒、賽銭、塩、ウム（里芋）、シューケ（ご馳走）が供えられる。それぞれ祭祀後に参加者へ配られ、お供え物はその場で食べてもよいし懐へしまつて持ち帰ってもよい。

名音独特の風習で興味深いのはシューギの一部を頭部に付けて祭りに臨むこと。塩や酒を頭に振りかけるお祓いの行為と同じ意味だろうか？



「スモー！ スモー！ スモー！」

き清め、ノロ神は太刀とテルオーギ（大きな扇子状の祭祀道具）でお祓いをする。力士達は「ヨイヤーヨイヤー」の掛け声と螺貝を吹き鳴らし威勢良く練り歩く。フリダシにはテラの神に相撲を見物してもらうためアシヤゲまで神をトモ（案内）する意味があるという。相撲で使われる力水はテラのイズミ（泉）で汲まれフリダシとともに力士二人が担いで運ぶ。他の集落でもコー（川）やタキ（瀧）、キユッキヨ（清川）などと呼ばれる神聖な取水場から水を汲み使用される。

名音集落で特筆すべきは、日曜日に集落イベントとして行うクガツクンチとは別に旧暦の九月九日に再度クガツクンチを行うこと。

生活環境が大きく変わる中、伝統行事を維持し続けるためには何らかの変化を余儀なくされる。しかし、時代と共に変わりつつも、改まるトシの節目を大切にしようとする姿勢に名音集落の人たちの気骨を感じた。



グジヌシを先頭にテラから振り出す

豊年祭がカラオケ大会？

祭りが進むと、相撲の取り組みの合間を利用して様々な芸能が披露される。唄者によるシマウタや本格的な日本舞踊の他、婦人や子供たちによるダンス等々。毎年の世相やブームを取り入れ趣向を凝らした余興は豊年祭の目玉の一つとなっている。

相撲を取らない女性達にとって滑稽な格好をして踊ることはナカイリの仮装同様にキトバレの意味があり多くの女性が何某かの余興をする。

最近では過疎化や少子高齢化により力士が減少し、多くの集落で相撲の番組編成に苦勞している。豊年祭に占める余興・芸能の割合は増しており、「唄や踊り無しでは場が持たない」という集落も多い。

豊年祭の進行が相撲だけでは困難となり、相撲と芸能という二つの要素で構成されることは新たな展開だろう。

時代の波に洗われながらも「感謝と祈願・集落の連帯」という豊年祭の本質を守り、祭りを維持するために変化をいとわなかったといえる。

ノ口を中心とした祭祀儀礼の衰退や社会環境が大きく変わるなか、豊年祭の変化は不可避だ。ならば、時代の変遷に抗うのではなく、より良い方向に変化させるべきではないか。このまま豊年祭のステージ化（演芸化）が進むと近い将来、豊年祭がカラオケ大会になる・・・などという日が来るかも知れない。

特集 絆を深める伝統行事。 ～大柵集落・国直集落・八月踊り～

いつまでも残したい わきや島の「唄」



①大柵集落アラセツ行事 ②国直集落豊年祭 ③大柵集落豊年祭 ④国直集落での八月唄の練習風景

ワキャシマヌウタを唄う

アラセツ、シバサシ、十五夜と続く八月（旧暦）は自然と共に暮らす人々にとって歳時を区切る神聖な月だ。島の人々は八月を迎えると夜を徹して踊り改まるトシを祝った。

八月踊りは奄美大島で旧暦八月を中心に踊られる伝統芸能。男女に分かれて一つの輪になりチジン（太鼓）を打ち鳴らし唄い踊る。

唄は男女交互に唄うが、ウチダシと呼ばれる男女のリーダー役が数百、数千あるという歌詞の中から唄を選び歌い始めると他の者がこれに続く。ウチダシは人生訓から恋歌など多彩な歌詞の中から対句や相手の歌詞を引用し掛け合う。

盛り上がってくると次第にアラシャゲ（テンポアップし）唄を被せる（相手が歌い終わらない打ちに歌い始める）。手足の動きが追いつかないほど早くなり、踊り手が詰まったところで曲はフィナーレを迎える。

また、同じ曲であっても集落ごとにテンポや歌詞が異なり、「ひと山越え」と別唄」と言われる程だ。

わずか11集落の大和村だが、東部はテンポ良く荒しやげるカサン唄（奄美北部の唄）に近いが、西部はゆっくりとしたリズムで抑揚のあるヒギヤ唄（奄美南部の唄）に近い。

近年は唄い手の高齢化や踊る機会の減少により、各集落で八月踊りの保存・伝承に苦勞していると聞く。

そんな中、積極的な活動が功奏しているのが大棚集落だろう。大棚集落では早々に八月踊り保存会を結成し、豊年祭を始め、アラセツ、シバサシ、奄美まつり、郷友会の八月踊りなど機会を得ては練習の成果を發揮している。

今年の豊年祭も百名を超える老若男女が土俵を二重三重に囲み盛大に踊った。とりわけ若い男性達が向いの女性達に向かって大声で唄を掛ける姿は力強く、伝承活動の確かな歩みを感じた。

また、僅かながらも確かな一歩を踏み出した集落もあった。国直集落（江崎貞信区長・50世帯）だ。

国直集落では男性高齢者の急逝が相継ぎ唄い手が激減。八月踊り存続の危機に陥った。慌てた青壮年団は近隣集落の八月踊りの歌詞本を手に老人クラブに教えを請おうと勉強会を開いたが、老人達には他の集落の唄本が通じず用をなさなかったという。「ひと山越え」と・の伝承を身もって知った青年達は老人クラブと共にハチガツ唄の採詞を開始。「なまぬつちいもいちゃんわけー（今何とおっしゃったのですか）」と、と聞き取りながら勉強したという。

他の集落の唄ではないワキャシマヌウタ（私達の集落の唄）を唄いたいという思いが一つになり子供からお年寄りまで全員で取り組み始めた。

公民館から聞こえる若者達の唄声はおぼつかなく八月踊りの伝承は始まったばかりだ。しかし、豊年祭を迎える毎に集落民を結ぶ絆は深まっていく。



大棚集落豊年祭八月踊り

大和村連合青年団プレゼンツ

第20回 ひらとみ祭り

「吾きゃが興そつ、吾きゃ生まれジマ。」

大和村の最大イベントひらとみ祭り（同実行委員会主催・森亮実行委員長）が8月27日土曜日に思勝港一帯で開催された。

同祭りは、人口の減少や過疎化に悩む村を盛り上げようと村連合青年団が20年前に立ち上げ、若者達に代々伝わる伝統のイベントだ。若者の減少に苦慮する青年団だが、「生まれ育ったシマを自分たちの手で興していこう。」を、合い言葉に連日深夜まで準備作業に励み記念すべき20回目の開催を迎えた。

当日は天候にも恵まれ、夏休み最後の週末に舟漕ぎ競争や、ステージショー、花火大会を楽しむ多くの人で賑わった。



ひらとみ祭り舟漕ぎ競争は舟漕ぎシリーズ最後の大会となることや、本格的な木製イタツケ舟を使用すること、何より「舟漕ぎ通」の熱い声援に後押しされ毎年村外からも多くのチームが参加する名物レースだ。

今年も舟漕ぎ競争群島一決定戦といえる奄美まつりの上位入賞チームを筆頭に、エンガ（男子）の部に51チーム、メラブ（女子）の部に36チームが参加。一回戦からハイレベルな競争が繰り広げられた。

以前は奄美まつりでも覇権を争った大和村の各集落チームだが、近年は選手の高齢化や舟漕ぎ競技のレベルアップにより地元大会でも苦戦が続く。

それでも、ご当地チームが出場すると各応援テントではチジン（太鼓）が打ち鳴らされ声援が上がる。なかには、おそろいのキテレツコスチュームで乗船し会場から大きな笑い声がかかる女子チームも（写真②）。

決勝戦は男女ともに奄美病院同僚チームが接戦を制し、昨年に続きアベック優勝を果たした（写真⑥）。

舟漕ぎ競争の結果は次のとおり。

【総合エンガの部】①奄美病院ドリームⅡ ②実組 ③小湊舟勝負隊

【総合メラブの部】①奄美病院なの②TEAMあいかな ③山田商店

【集落対抗エンガの部】①大和浜青壮年団 ②大和青年団 ③大和集落

【集落対抗メラブの部】①大和婦人会 ②滝の川メラベーズ ③国直女子

「早よ漕げ！キバシ！もっと漕げ！」



①しげちゃんず ②思勝がさむんず ③ azusa ④花火大会 ⑤第三潮どき丸 ⑥アベック優勝の奄美病院 ⑦仲勝

「あずさねーちゃんお帰りー！」

午後6時からのお楽しみステージは、保育所園児らによるダンスをオープニングに、島唄やバンドなど多彩なゲストの演奏が繰り広げられ、ステージ終盤には特別ゲストの azusa（あずさ）が登場すると会場からは大きな拍手と歓声が上がった。

azusa は本村国直出身のシンガーソングライター。3人組ユニット「スパークリング☆ポイント」のボーカルを経た後、昨年7月にソロデビューを果たした。自分で曲の制作の全てを手がける「宅録少女」として知られる他、ファーストアルバム収録の「夢ノート」がNHKアニメ番組の「もしドラ」のテーマ曲に採用されるなど活発な活動を見せる。

ステージではファーストアルバムから「I Love」や「マンゲロブの森」、「夢ノート」、「真夏のフォトグラフ」等を独特の透き通った声で熱唱。1曲歌うたびに会場からは azusa の子供の頃の愛称の「あずー」の声援が飛んだ。

azusa は、「一緒に盛り上げてくださったお客様本当にありがとうございます。素敵な機会を与えて下さってありがとうございます。懐かしい知り合いにもたくさん会えて最高の一日でした」と自身のツイッター（インターネット投稿サイト）にコメントを寄せた。ライブ終了後は2千発の花火が打ち上げられ、夏の夜空に大輪の花を咲かせた。人々は思い思いの場所から花火を見上げ行く夏を惜しんだ。

みなぎる力 心ひとつに 興そう まほろば大和！



全員参加のじゃんけん村一番

平成 23 年度第 49 回大和村民体育大会開催!

10月16日(日)、大和中グラウンドにて第49回大和村民体育大会(以下村体)が開催され、保育園児から高齢者まで村民が一堂に会し競技や応援に汗を流した。

村体は5校区、11集落を7チームに編成し競技を競う。人口減少や少子化に伴い選手編成に頭を悩ますチームも多いが、今年も全集落7チームがそろって参加した。

連合青年団代表の森岡豊史選手(29歳・今里)が「地域の代表として元氣いっぱいプレーすることを誓います」と、力強く選手宣誓し競技がスタート。村各種団体代表による50メートル始走式を皮切りに、トラックやフィールドの全32種目で熱戦を繰り広げた。

30メートル先のポストを狙うグラウンド・ゴルフ形式の百発百中競技ではホールインワンが飛び出し地元テントから大きな歓声が沸く場面も。また、例年「魔物に取り付かれる」選手が現れる注目のビン倒し競技では、今年も数十回とボールを投げてビンを倒すことができない選手が出現。思い通りにならないボールさばきに困り果てる様子に会場が大歓声に包まれた。

当日は会場を沸かす珍プレーの他、3種目で新記録が出るなどの白熱した好プレーが続出。各チームの反省会では様々なヒーロー、ヒロインが誕生したという(各種目の成績結果は次ページのとおり)。

また、大会に先駆けて5人の体育功労者と優秀スポーツ選手を表彰。開会

式において大和村民体育協会会長から表彰状の授与が行われました。表彰されたのは次の方々。

中山昭二さん(58歳)は昭和63年度から平成22年度まで23年間に渡り大和村民体育協会役員として大和村の体育振興のためにご尽力頂きました。

長田虎太郎くん(大和中1年)は平成23年度奄美水泳選手権大会において、男子200m平泳ぎ郡中学新記録を31年ぶりに更新しました。

賀川航太くん(大和中6年)は平成23年度鹿児島県学童水泳記録会において、男子小学校共通100m平泳ぎ第1位に輝きました。

岩元愛音さん(大和小5年)は平成23年度鹿児島県スポーツ少年団交歓会水泳競技において、女子小5年200m個人メドレー第1位に輝きました。

直崎京花さん(大和中5年)は平成23年度鹿児島小学生バドミントンシングルス大会において、女子小5年以下シングルス優勝に輝きました。

5名のみなさんに心からお祝い申し上げます。



直崎さん 岩元さん 賀川くん 長田くん 中山さん (左から)

第49回大和村民体育大会成績

種目	1位	2位	3位	種目	1位	2位	3位
小学1年女子 100m	賀川 美紀	川畑光智慧	宮本 心満	ボール蹴り	大 棚	宮古崎	大和浜 おがみ
小学2年女子 100m	江崎 仁美	竹中 喜	稲元 音色	宝つり	おがみ・名音・今里・大棚		
小学3年女子 100m	中島 心優	重信 優香	勝 えりい	新走回転	大 棚	宮古崎	おがみ
小学4年女子 100m	林 美嶺	山田 菜月	塩屋 美空	俵運搬リレー	今 里	大 棚	宮古崎
小学5年女子 100m	武原 美希	前田 侑香	森岡 めい	女子ファミリー縄跳び	大 棚	大和浜	おがみ
小学6年女子 100m	竹中 栄	山田 千聖	重野 七海	男子ファミリー縄跳び	大 棚	おがみ	今 里
小学1年男子 100m	奥平 光	政村 李玖	高田 生希	女子年代別リレー	大 棚	おがみ	大和浜
小学2年男子 100m	林 二刀流	窪山秀雲万	江崎 康平	男子年代別リレー	大 棚	宮古崎	大和浜
小学3年男子 100m	直崎 広生	出見 颯	山下 竜輝	女子輪入れ	大和浜	おがみ	宮古崎
小学4年男子 100m	賀川 翔瑛	脇田 直樹	愛川 祐生	男子輪入れ	宮古崎・戸円		今 里
小学5年男子 100m	赤井 将輝	高島 洋	白石 風歌	タイヤ回し	大 棚	大和浜	宮古崎
小学6年男子 100m	賀川 航太	福山 勇成	勝 純一	女子百発百中	名 音	宮古崎	今 里
中学1年女子 100m	出見友里香	大石 真子	池田 彩音	男子百発百中	名 音	おがみ・戸円	
中学2年女子 100m	堀 美南	勝 朝美	吉原 唯	綱引き	今 里	大和浜	大 棚
中学3年女子 100m	中 あかり	前田 友梨	氏家 香奈	メディシンリレー	おがみ	大 棚	今 里
中学1年男子 100m	前田凌太郎	長田虎太郎	林 聖蓮	ムカデ競争	大和浜	大 棚	おがみ
中学2年男子 100m	三浦 賢人	重信隆太郎	大山 勇雅	玉入れ	おがみ	今 里	大 棚
中学3年男子 100m	仁規将太郎	江崎 翔一	竹中 信	女子ゲートボール	大 棚	名 音	大和浜 宮古崎
中学女子 200m (1)	中 あかり	中山 恵	前田 友梨	男子ゲートボール	名 音	戸円・大和浜・宮古崎	
中学女子 200m (2)	重信 綾美	堀 美南	武原 成美	夫婦2人3脚	大 棚	おがみ	名 音
中学男子 200m (1)	仁規将太郎	江崎 翔一	福島まもる	ビン倒し	おがみ	宮古崎	名 音
中学男子 200m (2)	小田 康太	野崎 優弥	直崎 大生	女子水入れ	おがみ	大和浜	大 棚
高校女子 100m	中 作楽	里原ありさ	山田 流衣	男子水入れ	おがみ	宮古崎	大 棚
高校男子 100m	畑島亮太郎	林 瑞紀	福山 一成	小学 400m リレー	大 棚	宮古崎	大和浜
高校男子 200m	林 瑞紀	福山 一成	藤村 倅生	中学 600m リレー	大和浜	大 棚	おがみ
一般女子 100m	和泉 和香	東江 優	今井明利香	高校 600m リレー	大和浜	宮古崎	名 音
一般男子 100m	宮田 龍	市田晋太郎	森 信之助	一般女子 400m リレー	大和浜	今 里	おがみ
一般男子 200m	伊集院 将	納 孝之	宮田衣津茂	一般男子 800m リレー	大 棚	今 里	宮古崎
30以上女子 100m	下之園由美	岩元 麻那	加藤 路子	男女総合	大 棚	おがみ	大和浜
40代男子 100m	中村 修	内山 英寿	林 就義	女子総合	大 棚	おがみ	大和浜
50代男子 100m	伊集院 幼	森 貞義	吉原 照悟	躍進賞	宮古崎		
60代男子 60m	重村 実孝	泉 有智	川下 吉光	新記録			
一般男子 400m	森 信之助	市田晋太郎	納 孝之	高校女子 100m	中 作楽	14.03	
一般 1,500m	太 純一	宮本 聖平	中島 繁	高校男子 100m	畑島亮太郎	12.08	
				30以上女子 100m	下之園由美	15.67	
				30以上女子 100m	岩元 麻那	15.68	
				俵運搬リレー	今 里	1.12.42	



大和村長 伊集院 幼

平成22年10月20日の奄美豪雨災害から一年が経過しました。この間、大勢の皆様から物心両面に渡り心暖たまるご支援を頂き、被災者はもとより村民一同大いに元気づけられました。ご支援下さいました多くの皆様方に、紙面を借りて心から感謝を申し上げます。百年に一度と言われた豪雨災害でしたが、今年の9月25日に龍郷町、11月2日には瀬戸内町を中心に昨年の奄美豪雨に匹敵する災害に奄美は見舞われました。全国においても東日本大震災を始めとした大きな災害が各地を襲っており、

いつ来るか分からない災害から村民の生命と財産を守るため、災害に強い安心して住める村、元気な村づくりを目指して、村民と一体となって取り組んで参りたいと思います。どうか今後ともご支援・ご協力下さいますようお願い申し上げます。

頑張ろう大和村！

大和村長 伊集院 幼

奄美警察署が災害警備訓練を実施

奄美豪雨災害から1年が経過した10月20日、奄美警察署が名音と大和浜集落において災害警備訓練を行った。

訓練は局地的な集中豪雨により道路網が寸断し集落が孤立したことを想定。名音集落では名音漁港内に災害警備現地本部を設置し、要援護者リストをもとに情報収集と避難誘導を行った他、簡易無線アンテナを設置し情報伝達訓練を行った。また、大和浜集落ではがれきの中に閉じこめられた被災者や海上に流された被災者を想定。災害資機

「関係機関と連携をして対応を。」



名音漁港通信訓練

「語り継がれる10月20日。被災の記憶を教訓に。」

村内初の大規模避難訓練を実施

材を活用して本番ながら救出訓練を行った他、見学に訪れた村民に対し簡易な救助や救護方法の指導を行った。溝口俊郎奄美警察署長は「奄美大島では災害時に集落が孤立しがちだが、昨年の災害の教訓を活かして犠牲者を出さないように全力で取り組みたい」と語った。

村役場としても、災害発生初期段階から警察や消防、各関係機関と連携して対応できるよう、日頃から情報交換を行う必要があるだろう。

「避難経路と要援護者の再確認を。」

は予め標高の表示された高台を目指して避難。自主防災組織はリストアップした要援護者を車に乗せて移動させた。津波到達予定時刻の午前10時10分までは全集落において避難が完了し災害対策本部へ報告がなされた。

訓練後には参加者へアンケート調査が行われ、「避難場所の確認や避難に要する時間が確認できた」や「海抜が表示され解りやすい」、「今後も定期的に続けてほしい」、「集落の団結力が高まった」などの意見が寄せられた。



大和浜集落避難状況

10月23日(日)、本村で初めてとなる全村民を対象とした防災訓練が行われ、11集落、874人の村民が参加。参加者は非常時に備え避難経路や要援護者の再確認を行った。

訓練は、「喜界島沖でマグニチュード8の地震が発生し大津波警報が発令。予想される津波の高さは4m。住民は30分以内に海抜20m以上の高台へ避難する」という内容。

午前9時35分に大津波警報を知らせる防災行政無線が放送されると、住民

ご支援ありがとうございます

ございました

平成22年10月20日の奄美豪雨災害以降、全国の皆様から温かい励ましのお言葉と多数の支援物資や義援金をいただいております。心からお礼申し上げます。

お預かりした義援金は豪雨災害義援金配分委員会の決定に基づき被災者及び自主防災組織等に配分するとともに、東日本大震災の被災者へ義援金として送らせていただきました。

なお、これまで広報誌においてご報告した以降に義援金をいただいた方や誠に失礼ながら記載の漏れていた方、また団体名のみのご報告で芳名が記載されていない方をお知らせいたします。

「なまきや、ほろあずかりよろ。」

(貴方の真心お預かりしました。)

ご芳名(敬称略)	ご住所	ご芳名(敬称略)	ご住所	ご芳名(敬称略)	ご住所	ご芳名(敬称略)	ご住所
ジユウツカ マナミ	北海道	橋目 敏行	岡山県	奥田 興喜博	関西大和	中原 久子	関西大和
日出 未奈美	北海道	竹 重光	広島県	奥田 重保	関西大和	早瀬 昌恵	関西大和
石川 啓介	青森県	北川 敏浩	広島県	奥枝 達男	関西大和	原 管子	関西大和
長嶋 雅弘	東京都	柏岡 由美子	徳島県	奥枝 トミ工	関西大和	久野 平和	関西大和
高藤 芳美	東京都	小倉下曾根郵便局	福岡県	奥林 二郎	関西大和	平岡 モモ工	関西大和
大岩川由有子	東京都	奄美群島広域事務組合	奄美市	奥林 剛	関西大和	前田 和男	関西大和
桜木 良枝	東京都	盛岡 三郎	関東大和会	納 ふみ代	関西大和	前田 善良	関西大和
太田 康宣	東京都	配山 ヨシ子	関東大和会	伊東 あり子	関西大和	元山 俊一	関西大和
中祖 和一	東京都	吉原 忠男	関東大和会	岩泉 恒屋	関西大和	山口 幸子	関西大和
広瀬 聡実	茨城県	富田 尚武	関東大和会	内野 美佐雄	関西大和	相川 松夫	関西大和
高石 まき	埼玉県	永野 章	関東大和会	且 卓也	関西大和	大塚 秀雄	関西大和
田上 雅洋	埼玉県	梅崎 義人	関東大和会	加納 榮一	関西大和	大家 利之	関西大和
池田 喜人	埼玉県	中山 淑子	関東大和会	窪田 池治	関西大和	岩田 光伸	関西大和
大崎 克訓	愛知県	小田 谷子	関東大和会	川畑 源秀	関西大和	兼澤 尚行	関西大和
西浦 崇司	石川県	小田 サエ子	関東大和会	里見 宮廣	関西大和	川崎 宏一	関西大和
深山 信哉	三重県	小田 信一郎	関東大和会	芝田 武一郎	関西大和	鈴木 恒男	関西大和
杉岡 誠	大阪府	福原 輝義	関東大和会	寺西 千和子	関西大和	中井 ヒサ工	関西大和
内藤 悦子	大阪府	蘇畑 洋一	関東大和会	徳 恒源	関西大和	平松 実留	関西大和
福田 連史	大阪府	田川 ホズ工	関東大和会	轟 八洋子	関西大和	前田 孝子	関西大和
中山 隆史	奈良県	當 トナ工	関東大和会	富田 正毅	関西大和	松橋 志郎	関西大和
神戸市職員労働組合	兵庫県	杉山 れい子	関東大和会	富田 博文	関西大和	三澤 康彦	関西大和
神戸レミナリエ組織	兵庫県	大久保 萌子	関東大和会	中沖 サチ工	関西大和	渡辺 栄	関西大和
佐藤 友明	兵庫県	サボ・ミナ商店	関東大和会	中田 徳松	関西大和	山形市立第10中学校生徒会	関西大和

新たな伝統の第一歩

新設大和中学校で第1回体育祭

村内の中学校5校を統合し今年4月に開校した大和中学校（西村禎文校長・生徒46人）の第1回体育祭が9月18日（日）、大和中グラウンドにて開催された。

当日は台風15号の影響により開催が危ぶまれたが、保護者や小学校の高学年生、また「校区の子供達に寂しい思いをさせたくない」との思いから各校区の応援団が大勢駆けつけ盛大な体育祭となった。

「みんなの気持ちを一つにし 勝利目指して突き進め！」の大会スローガンのもと、生徒達は全力プレーで競い合った。

学校統合により生徒数が増え、組み体操やフォークダンスといった小規模校では行うことのできなかった新たな競技を実施。人間ピラミッドの最上段に登った愛川蓮くん（2年）は「下で支える友達を信じて登った。上からの眺めは気持ちよかった」と語った。

また、生徒数の減少から各小中学校でも行っていなかったフォークダンスが久々に復活。照れながら手を握る生徒や、カメラに向かいピースサインをするなど

個性は様々。また、生徒は小学校区など地域ごとに分かれて競う地域対抗選抜リレーにも参加。小学生から一般まで勝利目指してバトンをつないだ。

大会を見守った神田雄一PTA会長（53歳）は「開校から半年が経過し、子供達が校区の垣根なく打ち解けているのが心強い。これからは地域と学校が一体となって生徒をサポートしていきたい」と語った。



楽しく学んでかけっこ一番！

大和体遊クラブが陸上教室

9月23日（金）大和中学校グラウンドで村内小中学生を対象にした陸上教室が開催され、校区運動会を目前に控えた小中学生52名が参加しトレーニングに汗を流した。

教室を主催したのは来年度開設に向けて準備を進める総合型地域スポーツクラブ「大和体遊クラブ」。

講師の先生は、今年4月に名音校に赴任された名音小学校の平山淳郎教頭先生と、鹿屋市から来島した寿北小学校の梶原悦子教諭と会社員の枝元博乃さんの3名（いずれも県トップレベルのコーチ兼アスリート）。

参加者はコーチの指導のもと、ストレッチやスキップ、跳躍走、腿上げなどの基礎トレーニングを行った後、スタートダッシュと実際に100m走の計測を行った。

教室を終えた参加者たちは「少しタイムが早くなった様な気がする」や、「今週の運動会では1番になりたい」等と口をそろえた。

総合型地域スポーツクラブは文科省が行うスポーツ振興施策の一つで、大和体遊クラブは昨年度から各種スポーツ教室を開催し来年度の開設を目指している。

同クラブの和泉和香事務局長は「今日は子供達が楽しんで陸上競技を体験することができました。今後もクラブの活動を通して子供達が様々なスポーツに触れられる機会を提供していきたい」と意気込みを語った。



おまわりさんと一緒に歌ったよ。

鹿児島県警察音楽隊ふれあいコンサート

10月1日(土)大和村体育館において鹿児島県警察音楽隊による「ふれあいコンサート」が開催された。

コンサートは音楽活動を通じ住民の安心・安全な地域づくりの啓発・広報を目的とするもの。会場では開演に先駆け、ちびっこ制服試着コーナーや、白バイ、パトカー搭乗コーナーが設けられ、子供達は笑顔で敬礼するなどポーズを決めて記念撮影を行った。

演奏会はマーチングバンドの定番「ブロックM」から演奏が始まり、賛美歌「アメージング・グレイス」、「NHK大河ドラマ『江』のテーマ」、など耳に聞き覚えのある曲が演奏され、曲の合間に説明や楽しいトークが繰り広げられた。

幕間には参加者が音楽隊を指揮する「指揮者体験コーナー」が設けられ、野崎優弥くん(大和中3年)と中島史晴くん(大和小1年)がタクト(指揮棒)を手に演奏をリード、「明日があるさ」を演奏した。

演奏曲は「マル・マル・モリ・モリ!」や「ヘビー

ローテーション」など子供達の大好きな曲が続いたが、「きよしのズンドコ節」が演奏されると会場からは手拍子とともに一段と大きな歓声が沸いた。

演奏会の最後には大和小学校、大和中学校の児童生徒が参加し、「ビリーブ」を熱唱。訪れた村民達は、子供達の透き通る歌声と音楽隊の奏でるハーモニーに聞き入った。



サーアサ ヨイサノサー♪

大柵小で老人クラブを招いて八月踊り

9月14日(水)、大柵小学校(霧島一浩校長・児童26人)では、総合的学習の時間を利用し地域の伝統文化を学ぼうと八月踊りの練習に取り組んだ。

授業は大柵老人クラブ(奥山徳次会長)の「講師」25人を招き、八月踊りの中でも基本的な「足なれ」と「しゅんくわね」に挑戦した。

子供達の中には集落で八月踊りを経験した子も多く、手さばき、足さばきに慣れた様子。特に「しゅんくわね」独特の膝をヒョイッとテンポ良く曲げる場面ではお年寄りに混じって上手に踊る。

方言を使う機会の少ない子供達にとって八月踊りの歌詞は難しいようだったが、それでもスクリーンに映し出された歌詞を見ながら「サ～アサ～ ヨイサノサ～」と熱唱。また、この日は子供達だけでなく先生方も受講者の一員。自ら三味線を弾きシマウタに造詣の深い霧島校長先生だが、この日は子供達と並んでお勉強。本土から赴任された先生にとって八月唄の方言は難解な様子だったが苦笑しながら歌い踊った。

八月踊りの最後はおきまりの六調で締める。六調は子供達もお手の物で、全員が中央に集まり思い思いに手足を動かし楽しそうに踊った。

児童達はこの日老人クラブとの世代間交流を通じ伝統文化を学んだ。彼らはまだ八月踊りの文化的価値を理解してはいないだろう。しかし、将来成人した時に島の八月文化が自らの誇りになることを願いたい。



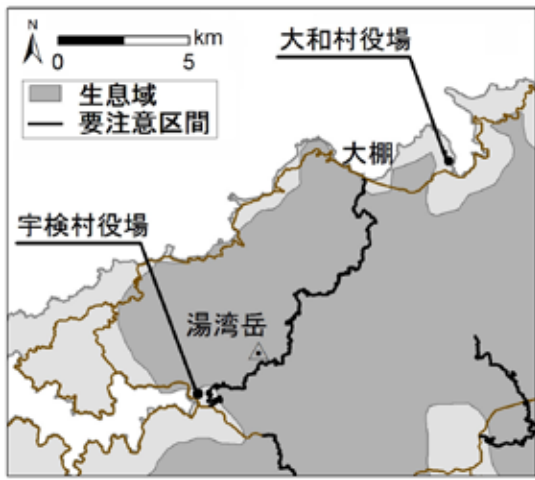
アマミノクロウサギ交通事故多発警報！

アマミノクロウサギは、世界中で奄美大島と徳之島の森だけに生息している、とても希少な動物です。しかし一方で、毎年多くの個体が交通事故で死亡しているという悲しい現実もあります。皆さまのやさしいドライブで、「森のたから」を守っていきましよう！

☆毎年9月～12月頃に事故発生数が増加します。

☆アマミノクロウサギが活動する夜間は注意し、特に林道では20キロ以下の運転をお願いします。

☆大和村には、アマミノクロウサギが多く生息しています。



☆地図の要注意区間は事故が起きやすいので、注意して運転して下さい。ミノクロウサギを発見したら、ご連絡をお願いします。

環境省奄美野生生物保護センター
Tel..55-8620

経済センサス調査活動が実施されます

我が国の全産業分野における事業所及び企業の経済活動の実態を全国及び地域別に明かにするとともに、事業所及び企業を調査対象とする各種統計調査の精度向上に資する母集団情報を得ることを目的としています。

◆対象…全国全ての事業所

◆調査方法…2つの方法で行います

◇調査員が伺います

支社・支店等のない単独の事業所と新設の事業所については、都道府県知事が任命する調査員が平成24年1月中旬に各事業所に伺って、調査票を配布し、調査期日(2月1日)以降に調査票の回収に伺います。

◇国、都道府県から郵送されます

支社・支店等を有する企業については、支社・支店等の調査票も含め、本社に郵送で調査票を送付し、本社から支社・支店等の調査票も含めて郵便またはインターネットで提出していただきます。

◆調査票の回収…平成24年2月1日～3月31日

◆問い合わせ…大和村役場総務企画課
Tel (0997) 57-2111

総務省統計局ホームページ
<http://www.stat.go.jp/>



鹿児島県立大島工業高等学校閉校記念式典及び記念誌頒布について

鹿児島県立大島工業高等学校は本年度をもって閉校となります。それに際しまして閉校記念式典を挙行すると共に、閉校記念誌を作成し頒布する事となりました。

1 閉校記念式典及び惜別の会について
期日…平成24年3月2日(金)

閉校式 13:45～(本校体育館)

惜別の会 19:00～(奄美観光ホテル・会費…4000円)

2 閉校記念誌について
価格…4000円(消費税,送料込み)

3 式典他や記念誌の申込について
ファックスまたはハガキにて、閉校記念式典、惜別の会、閉校記念誌希望者本人の氏名とふりがな、住所、郵便番号、電話番号、卒業年、学科を記入し、「式典出席希望、惜別の会出席希望、閉校記念誌希望」等とお書きいただき下記のファックス番号または宛先へお送りください。

《FAX》0997-52-4303
《宛先》〒894-0008
奄美市名瀬浦上1393 大島工業高等学校 閉校記念実行委員会宛
申込期限…平成23年11月30日(水)

4 問い合わせ先 大島工業高等学校
閉校記念実行委員会 有上 英夫
0997-52-4301

長瀬トンネル通行規制のお知らせ

県道79号名瀬瀬戸内線長瀬トンネル内において防災訓練を行うため、左記のとおり通行規制を行います。つきましては、訓練の目的を御理解いただきドライバーの皆様の御協力をお願いします。なお、不明な点がありましたら大島支庁建設課【53-1111-1内線332】までお問い合わせください。

通行規制
日時…平成23年12月13日(火)

午前10時～午前11時
場所…県道79号名瀬瀬戸内線

長瀬トンネル及び志戸勘トンネル
規制方法…全面通行止め

旧県道を迂回路とします

実施機関…鹿児島県大島支庁・大和村・奄美警察署・大島地区消防組合消防本部・名瀬消防署・大和消防分駐所・大和村消防団



島の宝

満1歳おめでとう

森岡琉卓さん
保護者・森岡豊史さん（今里）



立神のようにどっしりと存在感のある人に成長してくださいね

岩元帆久斗さん
保護者・岩元洋平さん（湯涌釜）



やまと
いじいの乱暴なだっこにも動じない落ち着きぶりはパパ譲りかな？

ご結婚おめでとう

勝 栄一朗さん（名音）
廣岡 優芳さん（大阪府）

重村 大剛さん（名音）
川畑 ゆきみさん（名音）

お誕生おめでとう

平岡 爽^{ぞうろ}さん（保護者・平岡結実）
宮 寿^{すずな}菜さん（保護者・宮慎一）

お悔やみ申し上げます

梅畑 アサエ様（100歳）
川畑 光江様（79歳）
井ノ上 ハツエ様（82歳）
今田 良文様（80歳）

才原 テル子様（80歳）
中濱 トヨ様（95歳）

泉 元幸様（79歳）

里岡 伸也様（29歳）

三田 三郎様（58歳）

吉原 シヅエ様（99歳）

小元 オミエ様（84歳）

前田 清好様（81歳）

溜島 島芳安様（80歳）

宮田 サカ様（80歳）

香典返し（社会福祉協議会へ）

梅畑 茂和様（故梅畑アサエ様）
川畑 英作様（故川畑光江様）
今田 初代様（故今田良文様）
才原 忠志様（故才原テル子様）
中濱 哲治様（故中濱トヨ様）

泉 武子様（故泉元幸様）

里岡 伸夫様（故里岡伸也様）

吉原 道子様（故吉原シヅエ様）

三田 富喜子様（故三田三郎様）

小元 敏光様（故小元オミエ様）

山下 町子様（故前田清好様）

蘇畑 郁夫様（故蘇畑チヨ様）

ふるさと納税ありがとうございます

名古屋 正勝様（横浜市）

昌谷 昭洋様（奄美市）

濱崎 ヨツ子様（鹿児島市）

福原 輝義様（埼玉県）

小田 谷子様（千葉県）

田川 ホズエ様（川崎市）

徳田 孝徳様（大阪府）

広報誌謝礼ありがとうございます

宮田 賢種様（奄美市）

中元 和夫様（鹿児島市）

武下 宜史様（鹿児島市）

川畑 悦郎様（千葉市）

池畑 隆行様（鹿児島市）

こせきの窓

人口 1,711人 (△62)
男 822人 (△13)
女 889人 (△49)
世帯 897戸 (△10)

11月1日現在
(前年同月比)

広報やまとからのお知らせ

■お便りお待ちしております

村政への要望や広報誌への意見、今後特集してほしい記事などを募集しています。紙面にてご紹介いたしますので、卷末住所（アドレス）まで郵送またはメール、ファックスにてお送り下さい。

■写真・氏名掲載ご了承のお願い

広報やまとは、「顔の見える身近な広報誌」を目指しています。紙面にて多くの皆様の顔写真や氏名年齢等が掲載されますが何卒ご理解のうえご了承くださいますようお願い申し上げます。

■定期購読のお知らせ

村を離れて暮らすご家族や出身者に広報やまとをお届けしませんか？住所氏名を記載した申込用紙を提出下さい（印刷部数の範囲内）。毎号郵送にて送付いたします。なお、購読料は徴収していませんが送料程度のご寄付をいただければ幸いです。

■ツイッター始めました

大和村ではインターネット上の短文投稿サイト「ツイッター」の運用を開始しました。生活情報や村の話題をつぶやいていますので閲覧してみてください。アカウントは次のとおりです。

・村広報アカウント @kouhou_yamato
・村長アカウント @sontyuu_yamato

大和浜十五夜豊年祭

大和村の人々の暮らした風景を写した懐かしい写真を掲載する「ナツカシヤふおとぐらふ」。第一回目の「ふおとぐらふ（写真）」は昭和8年の大和浜集落の豊年祭を撮影した一枚を紹介いたします。右側に見えるひとときわ高いかやぶき

屋根の建物が集落のシュツカイジヨ（集会場）。左のトネヤ（永田宅）と比較してその大きさが解るだろう。また、土俵の相対位置と合わせて旧大和浜公民館の立地と同じなのが見て取れる。左に見えるやぐらは現在の玉野公和さん宅敷地あたりか（やぐらは昭和30年代まで現役で活躍し、正午のサイレンを鳴らし村の人々に昼を告げたという）。土俵上の力士の姿は見えないが、袴を来た行事の右手には軍配が見える。恐らく現在大和浜集落で使用されている軍配と同一だろう。まだ周りの観客に洋装を見ることはできない。

当時は祭りの前日に集落民総出でミヤー（集落の中心にある神聖な場所）に土や砂を運び土俵を作った。土俵は神の降臨する神聖な場所とされ、左ないのしめ縄が埋められ、周りには白砂が敷き清められた。四本柱は枝葉の付いたまま山から切り出された（霊が宿る）シーギ（イタジイ）が立てられ四角錐の屋根をなしていた。なお、木々の伐採が厳しく律せられた大和浜の神山「滝ノ川山」だが、豊年祭の四本柱だけは伐採が許されたという。



ナツカシヤ ふおとぐらふ 第1回



栴谷さん愛用のカメラ

写真の提供は故栴谷正直さん（平成13年没・享年78歳）。栴谷さんは昭和32年から村の風景や人々の暮らしを写真に納め続けたアマチュアカメラマンだ。その作品は現在では消えてしまった貴重な風景や、生き生きと人々の暮らしぶりを表現しており氏が高い技術の持ち主だったことがうかがえる。また氏は、ご自分の撮影のみならず各家に保管された古い写真の複写、保存にも努められた。今回の写真も大和浜の民家の写真を撮影し、そのネガに詳細な情報を記入。大切に保管しておられた。氏の残した作品は本人やご家族の遺作としてのみならず、大和村の文化財といえるだろう。本村の歴史を画像でひも解くとき、氏の功績なくして語ることはできない。

快く作品を提供して頂いた奥様の節子さんに感謝申し上げますと共に「ナツカシヤふおとぐらふ」への協力をお願いしました。これからも栴谷さんの写真を中心に大和村の歴史を振り返ります。より多くの写真を掲載しますので、ご自宅に古い写真がございましたら大和村役場広報担当までご連絡願います。



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒 894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>